

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	安西 恵介	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。泌尿器系と感覚器系の構造と機能を学び、生命維持に必要な仕組みを学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器系（総論、構造）について理解することができる。 ・泌尿器系（構造と機能）について理解することができる。 ・泌尿器系（腎循環・尿生成）について理解することができる。 ・泌尿器系（体液の調節）について理解することができる。 ・感覚器系（分類と性質、皮膚の構造）について理解することができる。 ・感覚器系（体性感覚、内臓感覚）について理解することができる。 ・感覚器系（痛覚、視覚、味覚・嗅覚）について理解することができる。 ・感覚器系（聴覚・平衡感覚）について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

【授業計画】 構造と機能学 I-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	泌尿器系【総論、構造】	泌尿器系の構成と役割、腎臓の構造	講義
	2	泌尿器系【構造と機能】	尿路の構造	講義

1期	3	泌尿器系【腎循環・尿生成】	腎循環と糸球体での濾過・再吸収・分泌、クリアランス	講義
	4	泌尿器系【体液の調節】	pH調節、浸透圧、体液量の調節、畜尿と排尿	講義
	5	感覚器系【分類と性質、皮膚の構造】	感覚の分類と性質、皮膚の構造	講義
	6	感覚器系【体性感覚、内臓感覚】	体性感覚と内臓感覚	講義
	7	感覚器系【痛覚】	痛覚の特徴	講義
	8	感覚器系【視覚】	視覚器の構造と機能	講義
	9	感覚器系【味覚・嗅覚】	味覚と嗅覚の構造と機能	講義
	10	感覚器系【聴覚・平衡感覚】	聴覚・平衡感覚の構造と機能	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期				
3期				

【授業進度表】構造機能学 I-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	泌尿器系【総論、構造】		
	2	泌尿器系【構造と機能】		

1期	3	泌尿器系【腎循環・尿生成】	
	4	泌尿器系【体液の調節】	
	5	感覚器系【分類と性質、皮膚の構造】	
	6	感覚器系【体性感覚、内臓感覚】	
	7	感覚器系【痛覚】	
	8	感覚器系【視覚】	
	9	感覚器系【味覚・嗅覚】	
	10	感覚器系【聴覚・平衡感覚】	
	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
35			
36			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造と機能学Ⅱ-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。上肢と下肢の脈管、頭部の骨・筋・脈管・神経についての基本構造や役割について学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・脈管系（上肢・下肢・頭部）について理解することができる。 ・骨格系（頭蓋骨）について理解することができる。 ・筋系（頭部）について理解することができる。 ・頭頸部の局所解剖 について理解することができる。 ・神経系（脳神経・皮神経・頸神経）について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

【授業計画】構造と機能学Ⅱ-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	脈管系【上肢】	上肢の動脈・静脈・リンパ	講義

1期	2	脈管系【下肢】	下肢の動脈・静脈・リンパ	講義
	3	脈管系【頭部】	頭頸部の動脈・静脈・リンパ	講義
	4	骨格系【頭蓋骨】	頭蓋底と顔面頭蓋を構成する骨、穴の名称	講義
	5	骨格系【頭蓋骨】	各頭蓋骨、関節の特徴	講義
	6	筋系【頭部】	表情筋の名称と働き、咀嚼筋の名称、起始、停止、働き、支配神経	講義
	7	筋系【頸部】	頸部の筋の名称と起始、停止、働き、支配神経	講義
	8	頭頸部の局所解剖	頸部の運動と局所解剖	講義
	9	神経系【脳神経】	脳神経の名称、特徴と走行	講義
	10	神経系【皮神経・頸神経】	頭部の皮神経、頸神経	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
	2期			
3期				

【授業進捗表】構造と機能学Ⅱ-2 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
----	----	------	-------	------

1期	1	脈管系【上肢】		
	2	脈管系【下肢】		
	3	脈管系【頭部】		
	4	骨格系【頭蓋骨】		
	5	骨格系【頭蓋骨】		
	6	筋系【頭部】		
	7	筋系【頸部】		
	8	頭頸部の局所解剖		
	9	神経系【脳神経】		
	10	神経系【皮神経・頸神経】		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 臨床医学 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	安西 恵介	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸、あん摩、マッサージ、指圧の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の病態を理解することができる。 ・血液・造血管疾患を理解することができる。 ・感染症を理解することができる。 ・呼吸器疾患を理解することができる。 ・消化器疾患を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	医療情報科学研究所/編集. 病気がみえるVol.1 消化器 第5版, Vol.2 循環器 第3版, Vol.4 呼吸器 第2版, Vol.5 血液, メディックメディア, 東京
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学 I 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			

1期	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	2期	13	【循環器疾患1】	心不全の病態	講義
		14	【循環器疾患2】	心臓弁膜疾患	講義
15		【循環器疾患3】	不整脈、先天性心疾患、動脈硬化、大動脈瘤、大動脈解離	講義	
16		【循環器疾患4】	虚血性心疾患の分類と病態	講義	
17		【血液・造血器疾患1】	鉄欠乏性、巨赤芽球性、溶血性および再生不良性貧血	講義	
18		【血液・造血器疾患2】	白血病、悪性リンパ腫	講義	
19		【感染症】	感染症の総論、細菌感染症、ウイルス感染症、および性感染症（STD）	講義	
20		【呼吸器疾患1】	呼吸器の感染性疾患	講義	
21		【呼吸器疾患2】	閉塞性呼吸器疾患	講義	
22		【呼吸器疾患3】	拘束性呼吸器疾患	講義	
23		試験		試験	
24		試験の解説	試験内容のフィードバック	講義	
3期	25	【呼吸器疾患4】	肺癌、気管支拡張症	講義	
	26	【消化器疾患1】	口腔疾患、食道疾患	講義	
	27	【消化器疾患2】	胃・十二指腸疾患	講義	
	28	【消化器疾患3】	腸の炎症性疾患、機能的疾患	講義	
	29	【消化器疾患4】	大腸癌、腸閉塞および腹膜炎	講義	
	30	【消化器疾患5】	ウイルス性肝炎の分類と特徴	講義	
	31	【消化器疾患6】	アルコール性肝障害、肝硬変および肝癌	講義	
	32	【消化器疾患7】	胆・胆道疾患	講義	
	33	【消化器疾患8】	膵疾患	講義	
	34	履修内容の総括		講義	
	35	試験		試験	
	36	試験の解説	試験内容のフィードバック	講義	

【授業進捗表】臨床医学Ⅰ 2022年度 Ⅰ部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			
	2			

1期	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13	【循環器疾患1】	
	14	【循環器疾患2】	
	15	【循環器疾患3】	
	16	【循環器疾患4】	
	17	【血液・造血器疾患1】	
	18	【血液・造血器疾患2】	
	19	【感染症】	
	20	【呼吸器疾患1】	
	21	【呼吸器疾患2】	
	22	【呼吸器疾患3】	
	23	試験	
	24	試験の解説	
3期	25	【呼吸器疾患4】	
	26	【消化器疾患1】	
	27	【消化器疾患2】	
	28	【消化器疾患3】	
	29	【消化器疾患4】	
	30	【消化器疾患5】	
	31	【消化器疾患6】	
	32	【消化器疾患7】	
	33	【消化器疾患8】	
	34	履修内容の総括	
	35	試験	
	36	試験の解説	

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進

【科目】 臨床医学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸、あん摩、マッサージ、指圧の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・腎・泌尿器疾患の病態について理解することができる。 ・内分泌疾患の病態を理解することができる。 ・代謝・栄養疾患の病態を理解することができる。 ・免疫異常・膠原病の病態を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	医療情報科学研究所/編集. 病気がみえるVol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第4版, Vol.6 免疫・膠原病・感染症, Vol.8 腎・泌尿器, メディックメディア, 東京
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	予習課題を出すことがあり、課題の提出を成績に加味する。
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅱ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			
	3			
	4			

1期	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	【腎・泌尿器疾患1】	急性・慢性糸球体疾患 およびネフローゼ症候群	講義
	26	【腎・泌尿器疾患2】	急性・慢性腎不全、腎・泌尿器疾患、 腎・泌尿器腫瘍	講義
	27	【腎・泌尿器疾患3】 □【内分泌疾患1】	腎・尿路結石、前立腺疾患、 下垂体前葉疾患	講義
	28	【内分泌疾患2】	下垂体後葉疾患、甲状腺疾患	講義
	29	【内分泌疾患3】	副腎疾患	講義
	30	【代謝・栄養疾患1】	糖尿病	講義
	31	【代謝・栄養疾患2】	脂質異常症、 肥満とメタボリックシンドローム、 高尿酸血症	講義
	32	【免疫異常・膠原病1】	膠原病の概略 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、 全身性強皮症、ベーチェット病、 多発性筋炎/皮膚筋炎 アレルギー疾患	講義
	33	【免疫異常・膠原病2】		講義
	34	【免疫異常・膠原病3】		講義
	35	試験		試験
	36	試験の解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進捗表】臨床医学Ⅱ 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			
	2			
	3			

1期	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	【腎・泌尿器疾患1】	
	26	【腎・泌尿器疾患2】	
	27	【腎・泌尿器疾患3】 □【内分泌疾患1】	
	28	【内分泌疾患2】	
	29	【内分泌疾患3】	
	30	【代謝・栄養疾患1】	
	31	【代謝・栄養疾患2】	
	32	【免疫異常・膠原病1】	
	33	【免疫異常・膠原病2】	
	34	【免疫異常・膠原病3】	
	35	試験	
	36	試験の解説	

【科目】 臨床医学Ⅲ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸、あん摩、マッサージ、指圧の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科疾患について理解することができる。 ・ 神経疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	医療情報科学研究所/編集. 病気がみえるVol.7 脳・神経, Vol.11 整形外科, メディックメディア, 東京
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	予習課題を出すことがあり、課題の提出を成績に加味する。
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅲ 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			
	3			
	4			

1期	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	【整形外科疾患1】	主な関節疾患、五十肩、変形性関節症	講義
	14	【整形外科疾患2】	骨の代謝性疾患、骨腫瘍	講義
	15	【整形外科疾患3】	狭窄性腱鞘炎、形態異常	講義
	16	【整形外科疾患4】	骨折、脱臼、捻挫	講義
	17	【神経疾患1】	脳梗塞	講義
	18	【神経疾患2】	脳内出血、くも膜下出血	講義
	19	【神経疾患3】	髄膜炎、神経梅毒、ポリオ、脳腫瘍	講義
	20	【神経疾患3】	基底核変性疾患、認知症	講義
	21	【神経疾患4】	筋疾患、運動ニューロン疾患	講義
	22	【神経疾患5】	ギランバレー症候群、末梢神経障害	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進捗表】臨床医学Ⅲ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

1期	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13	【整形外科疾患1】	
	14	【整形外科疾患2】	
	15	【整形外科疾患3】	
	16	【整形外科疾患4】	
	17	【神経疾患1】	
	18	【神経疾患2】	
	19	【神経疾患3】	
	20	【神経疾患3】	
	21	【神経疾患4】	
	22	【神経疾患5】	
	23	試験	
	24	試験解説	
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		

【科目】 臨床医学Ⅳ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (G10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸、あん摩、マッサージ、指圧の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般外科の疾患について理解することができる。 ・麻酔科について理解することができる。 ・婦人科疾患について理解することができる。 ・皮膚科疾患について理解することができる。 ・眼科疾患について理解することができる。 ・耳鼻科疾患について理解することができる。 ・精神科疾患について理解することができる。 ・心療内科について理解することができる。 ・小児科疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	予習課題を出すことがあり、課題の提出を成績に加味する。
履修にあたっての留意点	

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	【末梢神経疾患・神経痛・機能性疾患】	末梢神経疾患、三叉神経、肋間神経、坐骨神経、後頭神経痛、頭痛	講義
	26	【一般外科1】	損傷概論、ショック、救急処置、心肺蘇生術	講義
	27	【一般外科2】		
	28	【麻酔科】	全身麻酔および局所麻酔	講義
	29	【婦人科疾患】	子宮癌、乳癌、更年期障害、月経異常	講義
	30	【皮膚科疾患】	接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、円形脱毛症	講義
	31	【眼科疾患】	眼科疾患	講義
	32	【耳鼻科疾患】	メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎	講義
	33	【精神科疾患】	神経症（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）、統合失調症、うつ病	講義
	34	【心療内科・小児科疾患】	心身症、神経性食欲不振症、過食症および小児科疾患	講義
	35	試験		試験
	36	試験の解説	試験内容のフィードバック	試験

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	【末梢神経疾患・神経痛・機能的疾患】		
	26	【一般外科1】		
	27	【一般外科2】		
	28	【麻酔科】		
	29	【婦人科疾患】		
	30	【皮膚科疾患】		
	31	【眼科疾患】		
	32	【耳鼻科疾患】		
	33	【精神科疾患】		
	34	【心療内科・小児科疾患】		
	35	試験		
	36	試験の解説		

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進

【科目】 病理学

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	難波 亜希	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	病理学とは、生体に起こる病的な状態、すなわち疾病の本態を解明する学問である。疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の五つの病変カテゴリーに分類されるが、それらの病変カテゴリーを学び、疾病を起こす原因、それぞれの疾病で生じる変化、その経過、疾病がたどる転帰を総合的にとらえるように学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	疾病の全体像、すなわち原因、経過、治療法、予後、および結末を総合的に理解するために、疾病における形態と機能の変化、および本態を学習する。 疾病の原因と、それにともなう細胞・組織の変化に関する知識を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・病理学の定義を理解することができる。 ・病因について理解することができる。 ・循環障害について理解することができる。 ・退行性、進行性病変について理解することができる。 ・炎症を理解することができる。 ・免疫異常とアレルギー疾患を理解することができる。 ・腫瘍について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	病理学概論
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業プリントを基に復習をすること
履修にあたっての留意点	臨床医学各論、衛生学と関連する項目があるので、教科書で確認すること。

【授業計画】 病理学 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

1期	1	病理学の意義・病因論(内因)	病理学の定義	講義
	2	病因論(内因)	内因(免疫・遺伝に関しては2期)	講義
	3	病因論(外因)	栄養、物理学的、化学的外因	講義
	4	病因論(外因)	生物学的外因	講義
	5	循環障害	充血・うっ血、貧血・虚血、出血	講義
	6	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、水腫、脱水、ショック	講義
	7	退行性病変	萎縮、代謝障害	講義
	8	退行性病変	壊死、老化、死	講義
	9	進行性病変	肥大・増殖、再生、化生、移植	講義
	10	進行性病変	創傷治癒、異物の処理	講義
	11	試験		試験
	12	解説とまとめ	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	炎症	急性炎症の経過	講義
	14	炎症	慢性炎症の分類、特異性炎	講義
	15	免疫とアレルギー	免疫の仕組み	講義
	16	免疫とアレルギー	アレルギー、自己免疫疾患	講義
	17	腫瘍(定義)	腫瘍の定義と特徴	講義
	18	腫瘍(分類)	良性腫瘍、悪性腫瘍	講義
	19	腫瘍(病期分類・生体に及ぼす作用)	腫瘍発生の諸段階、病期分類	講義
	20	腫瘍(発生原因・治療と再発)	腫瘍の発生原因と治療	講義
	21	先天異常	遺伝、代謝異常・遺伝子の異常	講義
	22	先天異常	染色体の異常、奇形	講義
	23	試験		試験
	24	解説とまとめ	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1	病理学の意義・病因論(内因)			
	2	病因論(内因)			
	3	病因論(外因)			
	4	病因論(外因)			
	5	循環障害			
	6	循環障害			
	7	退行性病変			
	8	退行性病変			
	9	進行性病変			
	10	進行性病変			
	11	試験			
	12	解説とまとめ			
2期	13	炎症			
	14	炎症			
	15	免疫とアレルギー			
	16	免疫とアレルギー			
	17	腫瘍(定義)			
	18	腫瘍(分類)			
	19	腫瘍(病期分類・生体に及ぼす作用)			
	20	腫瘍(発生原因・治療と再発)			
	21	先天異常			
	22	先天異常			
	23	試験			
	24	解説とまとめ			
3期	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
	33				
	34				
	35				
	36				

【科目】 診療の基本-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	診察から治療までの過程に必要な病気と症状を捉える医学的知識、かつ正しい所見を得るための正確な検査技能を概説する。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の症状や経過、および他の疾病との鑑別を学習する。 ・鍼灸臨床における病態把握、適不適応疾患の鑑別を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・診察の方法を理解することができる。 ・バイタルサインを理解することができる。 ・全身の診察を理解することができる。 ・神経系の診察を理解することができる。 ・運動機能検査を理解することができる。 ・局所の診察を理解することができる。 ・臨床検査、臨床心理を理解することができる。 ・その他治療学、おもな症状の診察法について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	臨床医学総論第2版 (医師薬出版)
参考書	診察と手技がみえる vol.1 (メディックメディア)
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 診療の基本-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	診察の概要	医学関連用語、診察の順序、カルテ	講義
	2	診察の方法【医療面接・POS】	医療面接	講義

1期	3	診察の方法（視診・触診・打診・聴診）	視診・触診・打診・聴診	講義	
	4	バイタルサイン（体温）	体温	講義	
	5	バイタルサイン（脈拍・血圧）	脈拍と血圧	講義	
	6	バイタルサイン（呼吸）	呼吸	講義	
	7	全身の診察	顔貌	講義	
	8	全身の診察	精神状態、言語の特徴	講義	
	9	全身の診察	体型、栄養状態	講義	
	10	全身の診察	姿勢と体位の特徴	講義	
	11	試験		試験	
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義	
	2期	13	全身の診察	歩行の特徴	講義
		14	全身の診察	皮膚、爪の特徴	講義
15		全身の診察	リンパ節	講義	
16		神経系の診察	感覚検査	講義	
17		神経系の診察		講義	
18		神経系の診察	反射検査法	講義	
19		神経系の診察	脳神経系の検査、髄膜刺激症状	講義	
20		神経系の診察		講義	
21		神経系の診察	その他の検査	講義	
22		運動機能検査	運動麻痺の分類と障害	講義	
23		試験		試験	
24		試験解説	試験内容のフィードバック	講義	
3期	25	運動機能検査	筋肉の異常、不随意運動、協調運動および起立と歩行	講義	
	26	運動機能検査		講義	
	27	頭部・顔面の診察	頭部・顔面、眼、鼻	講義	
	28	胸部の診察	肺・胸膜、心臓	講義	
	29	腹部の診察	腹部の診察	講義	
	30	背部・骨盤内臓器の診察	背部・骨盤内臓器	講義	
	31	四肢の診察	四肢	講義	
	32	その他の診察	救急時、女性、小児、高齢者	講義	
	33	臨床検査、臨床心理	臨床検査、臨床心理検査	講義	
	34	その他治療学、おもな症状の診察法	その他の治療学、おもな症状の診察法	講義	
	35	試験		試験	
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義	

【授業進捗表】診療の基本-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	診察の概要		
	2	診察の方法【医療面接・POS】		
	3	診察の方法（視診・触診・打診・聴診）		
	4	バイタルサイン（体温）		

1期	5	バイタルサイン（脈拍・血圧）	
	6	バイタルサイン（呼吸）	
	7	全身の診察	
	8	全身の診察	
	9	全身の診察	
	10	全身の診察	
	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13	全身の診察	
	14	全身の診察	
	15	全身の診察	
	16	神経系の診察	
	17	神経系の診察	
	18	神経系の診察	
	19	神経系の診察	
	20	神経系の診察	
	21	神経系の診察	
	22	運動機能検査	
	23	試験	
	24	試験解説	
3期	25	運動機能検査	
	26	運動機能検査	
	27	頭部・顔面の診察	
	28	胸部の診察	
	29	腹部の診察	
	30	背部・骨盤内臓器の診察	
	31	四肢の診察	
	32	その他の診察	
	33	臨床検査、臨床心理	
	34	その他治療学、おもな症状の診察法	
	35	試験	
	36	試験解説	

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中田智之	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	あん摩マッサージ指圧・鍼・灸による生体の反応や作用について理解し、患者さんに説明できるようになるために、解剖学・生理学の知識を基に治効の理論を修得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・体表構造(皮膚)について理解することができる。 ・体性の調節(運動系の調節)について理解することができる。 ・体性感覚(総論、痛覚、温度覚、触覚、圧覚、振動覚)について理解することができる。 ・体性感覚(固有感覚、内臓感覚)について理解することができる。 ・熱傷(炎症)について理解することができる。 ・体表の感覚について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう理論・解剖学・生理学
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	感覚、伝導路など生理学の教科書を予習しておくこと。授業後は復習をして、疑問を先送りしないようにすること。
履修にあたっての留意点	鍼灸治療を行うために必要な知識なので、図や表にまとめるなど、自分にとってわかりやすい形にまとめること。

【授業計画】 臨床あはき理論 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			
	3			
	4			

1期	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	体表構造(皮膚)	皮膚の構造(解剖学 26p~31p)	講義
	26	生体の調節(運動系の調節)	はり灸理論 第8章(47~54p)	講義
	27		はり灸理論 第8章(47~54p)	講義
	28	生体の調節(内臓系の調節)	はり灸理論 第8章(54~63p)	講義
	29	体性感覚(初めに、総論)	はり灸理論 第8章(63~69p)	講義
	30	体性感覚(痛覚)	はり灸理論 第8章(69~76p)	講義
	31	体性感覚(温度覚、触覚、圧覚、振動覚)	はり灸理論 第8章(76~82p)	講義
	32	体性感覚(固有感覚、内臓感覚)	はり灸理論 第8章(76~82p)	講義
	33	熱傷(炎症)	はり灸理論 第8章(83~87p)	講義
	34	体表の反応	はり灸理論 第8章(88~94p)	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進捗表】臨床あはき理論 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

1期	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	体表構造(皮膚)	
	26	生体の調節(運動系の調節)	
	27		
	28	生体の調節(内臓系の調節)	
	29	体性感覚(初めに、総論)	
	30	体性感覚(痛覚)	
	31	体性感覚(温度覚、触覚、圧覚、振動覚)	
	32	体性感覚(固有感覚、内臓感覚)	
	33	熱傷(炎症)	
	34	体表の反応	
	35	試験	
	36	試験解説	

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学の応用－1

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期 3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	<p>東洋医学の診断法である四診を理解し、四診から得られる情報を基に証を決定する。さらに、証に応じた治療法、治療穴について学ぶ。また、様々な刺法の特徴についても学んでいく。あはき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。1年次には取穴に必要な経絡経穴の種類や名前、部位を学んだが、ここでは、さらに確実に取穴をするために人体の骨、筋肉、神経、血管などの場所を正確に覚える。また、特によく使われる要穴や奇穴を名前や部位を覚え、臨床に必要な経絡経穴の知識を学んでいく。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>東洋医学による診断、治療ができるようになるために、東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概要を理解する。 人体各部の経穴を教科書に記載された通りに取穴するために、筋、神経、血管の場所を理解し、実際の取穴法を修得する。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢、下肢の経穴の部位を理解することができる。 ・ 五臓、六腑の病証を理解することができる。 ・ 奇恒の腑の病証と関連する五臓を理解することができる。 ・ 臓腑病証まとめを理解することができる。 ・ 望診、聞診、問診、切診について理解することができる。 ・ 胸腹部、背部、頭頸部、顔面部の経穴の部位を理解することができる。 ・ 要穴、奇穴、八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版東洋医学概論 新版経絡経穴概論
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	<p>難解な漢字や言葉の意味などがある場合が多いので漢字辞書などを用意すると良い。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。</p>

【授業計画】 東洋医学の応用－1 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	はじめに 前腕の陰経・陽経の経穴の部位	前腕の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	2	肝の病証	肝の生理と病証	講義
	3	心の病証	心の生理と病証	講義
	4	脾の病証	脾の生理と病証	講義
	5	肺の病証	肺の生理と病証	講義
	6	腎の病証	腎の生理と病証	講義
	7	六腑の病証/奇恒の腑の病証と関連する五臓	六腑・奇恒の腑の生理と病証	講義
	8	臓腑病証まとめ	各臓腑の病証	講義
	9	望診	望診の概略と内容	講義
	10	望診	望診の概略と内容	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	下腿の陰経・陽経の経穴の部位	下腿部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	14	聞診・問診	聞診の概略	講義
	15	問診		講義
	16	問診	問診の概略と内容	講義
	17	問診		講義
	18	切診	脈診の概略と内容	講義
	19	切診	腹診の概略と内容	講義
	20	切診		講義
	21	上腕・肩周囲の経穴の部位	上腕部・下肢部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	22	大腿陰経・陽経の取穴法	大腿部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説 上肢・下肢の経穴部位のまとめ	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	胸腹部の取穴法	胸腹部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	26	背部の取穴法	背部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	27	腰部の取穴法	腰部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	28	頭頸部の取穴法	頭頸部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	29	顔面部取穴法	顔面部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	30	要穴の説明	要穴	講義
	31	奇穴(含:新穴)・組合せ穴	奇穴・新穴の部位と主治	講義
	32	奇穴(含:新穴)・組合せ穴		講義
	33	八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈	特殊な経穴群	講義
	34	八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈		講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進度表】 東洋医学の応用－1 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	はじめに 前腕の陰経・陽経の経穴の部位		
	2	肝の病証		
	3	心の病証		
	4	脾の病証		
	5	肺の病証		
	6	腎の病証		
	7	六腑の病証/奇恒の腑の病証と関連する五臓		
	8	臓腑病証まとめ		
	9	望診		
	10	望診		
	11	試験		
	12	試験解説 聞診		
2期	13	下腿の陰経・陽経の経穴の部位		
	14	聞診・問診		
	15	問診		
	16	問診		
	17	問診		
	18	切診		
	19	切診		
	20	切診		
	21	上腕・肩周囲の経穴の部位		
	22	大腿陰経・陽経の取穴法		
	23	試験		
	24	試験解説 上肢・下肢の経穴部位のまとめ		
3期	25	胸腹部の取穴法		
	26	背部の取穴法		
	27	腰部の取穴法		
	28	頭頸部の取穴法		
	29	顔面部取穴法		
	30	要穴の説明		
	31	奇穴(含:新穴)・組合せ穴		
	32	奇穴(含:新穴)・組合せ穴		
	33	八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈		
	34	八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈		
	35	試験		
	36	試験解説		

【分野】 専門分野 臨床あん摩マッサージ指圧、臨床はり学、臨床きゆう学

【科目】 東洋医学臨床論 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	町田 しのぶ	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、症状に対する考え方から証立て、配穴、治療法を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を学習する。 2. 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋医学と東洋医学的な考え方の違いを理解することができる。 ・腰下肢痛について理解することができる。 ・肩こりについて理解することができる。 ・頸肩腕痛について理解することができる。 ・肩関節痛について理解することができる。 ・上肢痛について理解することができる。 ・膝関節痛について理解することができる。 ・運動麻痺について理解することができる。 ・スポーツ障害を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論<はりきゆう編> 東洋医学臨床論<あん摩マッサージ指圧編>
参考書	リハビリテーション医学・臨床医学総論・臨床医学各論・新版 経絡経穴概論 配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	実技で学ぶ徒手検査を見直すこと。授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	徒手検査は、機序まで説明できるように復習すること。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学臨床論 I 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	総論・導入 (治療の流れ)	西洋医学と東洋医学的な考え方の違い、SOAP形式	講義

1期	2	腰下肢痛	脊髄症、神経根症、馬尾症状	講義
	3	腰下肢痛	間欠跛行、坐骨神経痛、股関節疾患	講義
	4	腰下肢痛	腰下肢痛に対する、現代医学的、東洋医学的治療計画	講義
	5	肩こり	肩こり、肩甲骨周りの筋と経穴	講義
	6	頸肩腕痛	脊髄症、神経根症の鑑別、頸肩腕痛	講義
	7	頸肩腕痛	胸郭出口症候群	講義
	8	頸肩腕痛	頸肩腕痛の現代医学的、東洋医学的治療計画	講義
	9	肩関節痛	肩関節の徒手検査法	講義
	10	肩関節痛	いわゆる五十肩の治療、現代医学的、東洋医学的治療	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
	2期	13	上肢痛	上肢の神経絞扼障害
14		上肢痛	講義	
15		上肢痛	上肢の腱鞘炎	講義
16		膝関節痛	膝関節疾患の徒手検査法	講義
17		膝関節痛	変形性膝関節症、膝痛の現代医学的、東洋医学的治療	講義
18		運動麻痺	下肢の神経絞扼障害	講義
19		運動麻痺	脳血管障害後遺症、末梢性絞扼障害	講義
20		運動性肩関節痛・上肢痛	スポーツ障害としての上肢痛	講義
21		運動性腰痛・膝痛	スポーツ障害としての腰痛、膝痛	講義
22		運動性下肢痛	足関節疾患、下腿のコンパートメント症候群	講義
23		試験		試験
24		試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進捗表】東洋医学臨床論Ⅰ 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	総論・導入（治療の流れ）		
	2	腰下肢痛		

1期	3	腰下肢痛	
	4	腰下肢痛	
	5	肩こり	
	6	頸肩腕痛	
	7	頸肩腕痛	
	8	頸肩腕痛	
	9	肩関節痛	
	10	肩関節痛	
	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13	上肢痛	
	14	上肢痛	
	15	上肢痛	
	16	膝関節痛	
	17	膝関節痛	
	18	運動麻痺	
	19	運動麻痺	
	20	運動性肩関節痛・上肢痛	
	21	運動性腰痛・膝痛	
	22	運動性下肢痛	
	23	試験	
	24	試験解説	
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
36			

【分野】 専門分野 臨床はり学、臨床きゆう学

【科目】 東洋医学臨床論Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中田智之	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、症状に対する考え方から証立て、配穴、治療法を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を学習する。 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 頭痛について理解することができる。 顔面痛、顔面麻痺について理解することができる。 歯痛について理解することができる。 眼精疲労について理解することができる。 鼻閉鼻汁について理解することができる。 脱毛症について理解することができる。 めまい、耳鳴り・難聴について理解することができる。 咳嗽・喘息について理解することができる。 胸痛、腹痛、悪心・嘔吐について理解することができる。 便通異常について理解することができる。 月経異常について理解することができる。 排尿障害、EDについて理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論・臨床医学総論・経絡経穴概論・東洋医学概論
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	おもに復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	東洋医学的に考える場合、五行の色体表、要穴表に出ている経穴の取穴部位を書けるようにすること。

【授業計画】 東洋医学臨床論Ⅱ 2022年度 I部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	導入・各論(頭痛)	緊張性頭痛、血管性頭痛、後頭神経痛	講義
	2	頭痛	現代医学的、東洋医学的治療	講義
	3	顔面痛	三叉神経痛	講義
	4	顔面麻痺	中枢性、末梢性麻痺の鑑別	講義
	5	歯痛	歯痛、顎関節症	講義
	6	眼精疲労	眼精疲労	講義
	7	鼻閉鼻汁	アレルギー性鼻炎	講義
	8	脱毛症	脱毛	講義
	9	めまい	適不適の鑑別	講義
	10	耳鳴り・難聴	めまいとの関連	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	咳嗽・喘息	呼吸器疾患	講義
	14	胸痛	気胸の機序	講義
	15	腹痛	適不適の鑑別	講義
	16	悪心・嘔吐	鑑別が必要な疾患	講義
	17	便通異常	便秘、下痢、交替性便通異常	講義
	18	便通異常	機能的便通異常	講義
	19	月経異常	女性の性周期の仕組み	講義
	20	月経異常	機能的月経異常	講義
	21	排尿障害	排尿困難、尿失禁	講義
	22	E D	E Dの機序	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			

【授業進度表】東洋医学臨床論Ⅱ 2022年度 I部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	導入・各論(頭痛)		
	2	頭痛		
	3	顔面痛		
	4	顔面麻痺		
	5	歯痛		
	6	眼精疲労		
	7	鼻閉鼻汁		
	8	脱毛症		
	9	めまい		
	10	耳鳴り・難聴		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13	咳嗽・喘息		
	14	胸痛		
	15	腹痛		
	16	悪心・嘔吐		
	17	便通異常		
	18	便通異常		
	19	月経異常		
	20	月経異常		
	21	排尿障害		
	22	E D		
	23	試験		
	24	試験解説		
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 臨床はり学、臨床きゆう学

【科目】 診療の組み立て

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	町田 しのぶ	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	人体の機能を理解し、鍼灸治療の適・不適の判断の基準となる検査の機序を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の運動の仕組みおよび正常な可動範囲を学習する。 ・他覚的所見を収集することの意義と、各種検査の機序を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・関節と運動の力学・姿勢とその異常・平衡反応・連合運動と共同運動・随意運動について理解することができる。 ・脊柱・体幹の機能について理解することができる。 ・上肢帯・上肢の機能について理解することができる。 ・下肢帯・下肢の機能について理解することができる。 ・正常歩行と異常歩行について理解することができる。 ・関節可動域テストについて理解することができる。 ・筋力テストについて理解することができる。

【担当教員から】

教科書	リハビリテーション医学・臨床医学総論・解剖学・生理学
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと
履修にあたっての留意点	1年次に学習したMMT、ROMの復習をする。授業後の復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】 診療の組み立て 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態

1期				
2期				
3期	1	関節と運動の力学・姿勢とその異常・	関節運動とてこの原理、姿勢と重心の	講義
	2	平衡反応・連合運動と共同運動・随意運動	関連、姿勢反射、平衡反応	講義
	3	脊柱・体幹の機能	脊柱の動きと筋の作用、胸郭と呼吸の	講義
	4	上肢帯の機能	肩甲骨と肩関節の動き	講義
	5	上肢の機能	肘関節、手関節、手部の運動	講義
	6	下肢帯・下肢の機能	骨盤と股関節の関連、膝関節、足関	講義
	7	正常歩行と異常歩行	正常歩行のサイクル、歩行と重心	講義
	8	関節可動域テスト	おもな関節の可動域、関節可動域測定	講義
	9	筋力テスト	MMT、主な関節運動の測定方法	講義
	10			講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【授業進度表】診療の組み立て 2022年度 I部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			

	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	関節と運動の力学・姿勢とその異常・	
	26	平衡反応・連合運動と共同運動・随意運動	
	27	脊柱・体幹の機能	
	28	上肢帯の機能	
	29	上肢の機能	
	30	下肢帯・下肢の機能	
	31	正常歩行と異常歩行	
	32	関節可動域テスト	
	33	筋力テスト	
	34		
	35	試験	
	36	試験解説	

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実技 I-2(あん摩)

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	木村 雅洋	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1年次に引き続き身体部位の施術手順に従って、あん摩の各手技や動作を正しく行うことを目的に行う。後期から、臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患に対し、診察から施術までの一連の内容を学習する。 治療院での施術経験を活かし、あん摩の施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	あん摩を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことを目標とする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部の按摩、腹臥位、肩背腰部の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・身体各部の按摩、腹臥位、頸部、上肢の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・身体各部の按摩、腹臥位、殿部、下肢の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・身体各部の按摩 背臥位、頭部、顔面部、頸部の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・身体各部の按摩 背臥位、胸部、上肢の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・全身按摩の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・疾患別按摩、頸肩腕痛、肩関節痛の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。 ・疾患別按摩、腰痛、腰下肢痛、膝関節痛の施術手順を覚え、形・動作を正しく行うことができる。

【担当教員から】

教科書	按摩・マッサージ・指圧（新版）－実技編－
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あん摩マッサージ指圧実技 I-2(あん摩) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態	
前期	1	2. 身体各部の按摩 基本手技復習	各基本手技	実習	
	2	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部	各部位の施術手順 形・動作を正しく行う	実習	
	3	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部		実習	
	4	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部		実習	
	5	2. 身体各部の按摩 (3) 上肢 4) 腹臥位 (2) 頸部		実習	
	6	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (3) 上肢		実習	
	7	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (4) 殿部		実習	
	8	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (5) 下肢		実習	
	9	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (5) 下肢		実習	
	10	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (1) 頭部		実習	
	11	2. 身体各部の按摩 (3) 頸部 5) 背臥位 (2) 顔面部		実習	
	12	2. 身体各部の按摩 (5) 上肢 5) 背臥位 (4) 胸部		実習	
	13	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (5) 上肢		実習	
	14	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位まとめ		実習	
	15	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位まとめ		実習	
	16	試験			試験
	17	試験			試験
	18	復習		試験内容のフィードバック	実習
後期	19	3. 全身按摩	特徴にあった適切な手技を選択 一定時間内に施術を構成	実習	
	20	3. 全身按摩		実習	
	21	3. 全身按摩		実習	
	22	3. 全身按摩 まとめ		実習	
	23	4. 疾患別按摩 (1) 頸肩腕痛	施術の適応・不適応の判断 適応の場合、適切な施術を行う	実習	
	24	4. 疾患別按摩 (1) 頸肩腕痛		実習	
	25	4. 疾患別按摩 (2) 肩関節痛		実習	
	26	4. 疾患別按摩 (2) 肩関節痛		実習	
	27	4. 疾患別按摩 (3) 腰痛		実習	
	28	4. 疾患別按摩 (3) 腰痛		実習	
	29	4. 疾患別按摩 (4) 腰下肢痛		実習	
	30	4. 疾患別按摩 (4) 腰下肢痛		実習	
	31	4. 疾患別按摩 (5) 膝関節痛		実習	
	32	4. 疾患別按摩 (5) 膝関節痛		実習	
	33	4. 疾患別按摩 (1) ~ (5) まとめ		実習	
	34	試験			試験
	35	試験			試験

【授業進度表】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ-2(あん摩) 2022年度 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
前期	1	2. 身体各部の按摩 基本手技復習		
	2	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部		
	3	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部		
	4	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (1) 肩背腰部		
	5	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (2) 頸部 (3) 上肢		
	6	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (3) 上肢		
	7	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (4) 殿部		
	8	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (5) 下肢		
	9	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位 (5) 下肢		
	10	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (1) 頭部		
	11	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (2) 顔面部 (3) 頸部		
	12	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (4) 胸部 (5) 上肢		
	13	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位 (5) 上肢		
	14	2. 身体各部の按摩 4) 腹臥位まとめ		
	15	2. 身体各部の按摩 5) 背臥位まとめ		
	16	試験		
	17	試験		
	18	復習		
後期	19	3. 全身按摩		
	20	3. 全身按摩		
	21	3. 全身按摩		
	22	3. 全身按摩 まとめ		
	23	4. 疾患別按摩 (1) 頸肩腕痛		
	24	4. 疾患別按摩 (1) 頸肩腕痛		
	25	4. 疾患別按摩 (2) 肩関節痛		
	26	4. 疾患別按摩 (2) 肩関節痛		
	27	4. 疾患別按摩 (3) 腰痛		
	28	4. 疾患別按摩 (3) 腰痛		
	29	4. 疾患別按摩 (4) 腰下肢痛		
	30	4. 疾患別按摩 (4) 腰下肢痛		
	31	4. 疾患別按摩 (5) 膝関節痛		
	32	4. 疾患別按摩 (5) 膝関節痛		
	33	4. 疾患別按摩 (1) ~ (5) まとめ		
	34	試験		
	35	試験		
	36	復習と発展		

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ-2(マッサージ)

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	上利 文子	
単位数	1 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	1年次に引き続き、身体部位の施術手順に従って、マッサージの各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。後期のまとめとして代表的な整形外科的な疾患に対して、診察から施術までの一連の内容を学習する。治療院での施術経験を活かし、マッサージの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	マッサージを行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目指す。臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応・不適応の判断ができ、それに対応した適切なマッサージ施術を行うことができることを目的とする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部への施術・頸部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・背部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・腰部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・胸部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・腹部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・顔面部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・乳房マッサージの施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・結合織マッサージの施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 ・腰下肢痛・膝痛の適応・不適応の判断ができ、それに対応した適切なマッサージ施術を行うことができる。 ・肩関節痛・頸肩腕痛の適応・不適応の判断ができ、それに対応した適切なマッサージ施術を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	按摩・マッサージ・指圧（新版）－実技編－
参考書	解剖学、生理学、リハビリテーション医学、臨床医学総論、臨床医学各論
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	参考書としてあげた教科書を利用して、各疾患、特に運動器疾患についての理解を深めておく。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のための予習、手技を確実に身につけるための復習しておくことを勧めます。

【授業計画】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ-2(マッサージ) 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	身体各部への施術・頸部	施術者に負担のない身体の使い方 頸部の施術手順	実技
	2	身体各部への施術・頸部		実技
	3	身体各部への施術・背部	施術者に負担のない身体の使い方 背部の施術手順	実技
	4	身体各部への施術・背部		実技
	5	身体各部への施術・腰部	施術者に負担のない身体の使い方 腰部の施術手順	実技
	6	身体各部への施術・腰部		実技
	7	身体各部への施術・胸部	施術者に負担のない身体の使い方 胸部の施術手順	実技
	8	試験		試験
	9	講評とまとめ	試験内容のフィードバック	実技
後期	10	身体各部への施術・腹部	施術者に負担のない身体の使い方 腹部の施術手順	実技
	11	身体各部への施術・腹部		実技
	12	身体各部への施術・顔面部	顔面部の施術手順	実技
	13	臨床実技・乳房マッサージ	乳房マッサージの概要、適応、禁忌 乳房マッサージの基本手技	実技
	14	臨床実技・結合織マッサージ	結合織マッサージの概要、適応、禁忌 結合織マッサージ基本手技	実技
	15	臨床実技・腰下肢痛・膝痛・スポーツマッサージ	主要なスポーツ傷害 整形外科的疾患 適応・不適応の判断	実技
	16	臨床実技・肩関節痛・頸肩腕痛・スポーツマッサージ		実技
	17	試験		試験
	18	講評とまとめ	試験内容のフィードバック	実技

【授業進度表】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ-2(マッサージ) 2022年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
前期	1	身体各部への施術・頸部		
	2	身体各部への施術・頸部		
	3	身体各部への施術・背部		
	4	身体各部への施術・背部		
	5	身体各部への施術・腰部		
	6	身体各部への施術・腰部		
	7	身体各部への施術・胸部		
	8	試験		

	9	講評とまとめ	
後期	10	身体各部への施術・腹部	
	11	身体各部への施術・腹部	
	12	身体各部への施術・顔面部	
	13	臨床実技・乳房マッサージ	
	14	臨床実技・結合織マッサージ	
	15	臨床実技・腰下肢痛・膝痛・スポーツマッサージ	
	16	臨床実技・肩関節痛・頸肩腕痛・スポーツマッサージ	
	17	試験	
	18	講評とまとめ	

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ-2(指圧)

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	楽野木 笑巳果	
単位数	1 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	1 年次に引き続き、身体部位の施術手順に従って、指圧の各手技や動作を正しく行うことを目的に行う。後期から、臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患に対して、診察から施術までの一連の内容を学習する。 治療院での施術経験を活かし、指圧の施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 指圧を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことを目標とする。 臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応・不適応の判断ができ、それに対応した適切な指圧施術を行うことを目標とする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 背臥位、上肢の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 背臥位、頭部、顔面部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 背臥位、胸部、腹部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 側臥位、頭部・頸部、背部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 側臥位、殿部、下肢の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 座位、頸部および肩上部の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。 腰下肢痛、膝痛、頸腕痛、肩関節痛の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。

【担当教員から】

教科書	按摩・マッサージ・指圧（新版）－実技編－
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ-2(指圧) 2022年度 I部鍼灸マッサージ科					
学期	回数	講義内容	備考	講義形態	
前期	1	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (2) 上肢	身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行う	実習	
	2			実習	
	3	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (3) 頭部 (4) 顔面部		実習	
	4	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (5) 胸部 (6) 腹部		実習	
	5			実習	
	6	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 (1) 頭部・頸部 (2) 背部		実習	
	7			実習	
	8	試験			試験
	9	まとめ		試験内容のフィードバック	実習
後期	10	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 (4) 殿部 (5) 下肢	身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行う	実習	
	11			実習	
	12	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 全体復習		実習	
	13	4. 身体各部の指圧法 4) 座位 (1) 頸部および肩上部		実習	
	14	5. 全身指圧		全身の指圧施術	実習
	15	6. 各症候に対する指圧 (1) 腰下肢痛 (2) 膝痛		臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患 適応・不適応の判断	実習
	16	6. 各症候に対する指圧 (3) 頸腕痛 (4) 肩関節痛			実習
	17	試験			試験
	18	試験解説		試験内容のフィードバック	実習

【授業進度表】 あん摩マッサージ指圧実技Ⅲ-2(指圧) 2022年度 I部鍼灸マッサージ科					
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	科長確認
前期	1	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (2) 上肢			
	2				
	3	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (3) 頭部 (4) 顔面部			
	4	4. 身体各部の指圧法 2) 背臥位 (5) 胸部 (6) 腹部			
	5				
	6	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 (1) 頭部・頸部 (2) 背部			
	7				

	8	試験	
	9	まとめ	
後期	10	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 (4) 殿部 (5) 下肢	
	11		
	12	4. 身体各部の指圧法 3) 側臥位 全体復習	
	13	4. 身体各部の指圧法 4) 座位 (1) 頸部および肩上部	
	14	5. 全身指圧	
	15	6. 各症候に対する指圧 (1) 腰下肢痛 (2) 膝痛	
	16	6. 各症候に対する指圧 (3) 頸腕痛 (4) 肩関節痛	
	17	試験	
	18	試験解説	

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	楽野木 笑巳果/古屋 英治	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面接（患者接遇などを含む）の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行うことで円滑な医療面接が行えるよう学習をする。 ・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患（肩こり、頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛）に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。 ・治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。 ・医療面接について理解し、適切に行えることを目的とする。 ・臨床でよく遭遇する肩こり・頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した常用穴を用いて適切に鍼灸施術を行えるようにする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧、脈拍を正しく測定し、記録することができる。 ・頸肩腕痛、腰下肢痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 ・頸肩腕痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 ・頸肩腕痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 ・モデル患者に対し、7分以内に頸肩腕痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、5 0mm 1 8号鍼および4 0mm 1 6号を用いて直刺（9 0°）および斜刺（4 5°）にて1 0mmの刺入を行うことができる。 ・腰下肢痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 ・腰下肢痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 ・モデル患者に対し、7分以内に腰下肢痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、5 0mm 1 8号鍼および4 0mm 1 6号を用いて直刺（9 0°）および斜刺（4 5°）にて1 0mmの刺入を行うことができる。 ・モデル患者の左右失眠穴に、2分間で半米粒大の透熱灸を左右交互に1 0壮以上施灸することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	授業中に学習した取穴や解剖学的部分などを復習をしておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技 I 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1. 授業ガイダンス、POS、POMR、SOAPについて説明	POS、POMR、SOAP、診療録 医療面接法	講義 実技
	2	2. 医療面接、診療録の記載など説明		
	3	2. 医療面接の演習	医療面接、診療録	実技
	4	模擬患者医療面接1		
	5	2. 医療面接の演習		
	6	模擬患者医療面接2		
	7	2. 医療面接の演習		
	8	模擬患者医療面接3		
	9	3. 腰下肢痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、	腰痛・腰下肢痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	10			
	11	3. 腰下肢痛② 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	12	常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	13	3. 腰下肢痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	14	常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	15	3. 腰下肢痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	16	常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	17	3. 腰下肢痛⑤		
	18	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う		
	19	4. 頸肩腕痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解	肩こり・頸肩腕痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	20			
	21	4. 頸肩腕痛② 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	22	の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	23	4. 頸肩腕痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	24	の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	25	4. 頸肩腕痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）		
	26	の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	27	4. 頸肩腕痛⑤	ロールプレイ形式	実技
	28	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う		
	29	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習①		実技
	30	徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		
	31	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習②		実技
	32	徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		
	33	前期実技試験①	医療面接・徒手検査法・血圧測定	実技
	34	医療面接、徒手検査法、血圧測定前期試験		
	35	前期実技試験②	施鍼・施灸	実技
	36	施鍼、施灸		

【授業進度表】 はりきゅう臨床実技Ⅰ 2022年度Ⅰ部 鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	1. 授業ガイダンス、POS、POMR、SOAPについて 説明 2. 医療面接、診療録の記載など説明		
	2			
	3	2. 医療面接の演習 模擬患者医療面接1		
	4			
	5	2. 医療面接の演習 模擬患者医療面接2		
	6			

前期	7	2. 医療面接の演習	
	8	模擬患者医療面接3	
	9	3. 腰下肢痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、	
	10		
	11	3. 腰下肢痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	12		
	13	3. 腰下肢痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	14		
	15	3. 腰下肢痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	16		
17	3. 腰下肢痛⑤		
18	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う		
後期	19	4. 頸肩腕痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解	
	20		
	21	4. 頸肩腕痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	22		
	23	4. 頸肩腕痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	24		
	25	4. 頸肩腕痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	26		
	27	4. 頸肩腕痛⑤	
	28	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う	
	29	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習① 徒手検査、取穴、刺鍼、施灸	
	30		
	31	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習② 徒手検査、取穴、刺鍼、施灸	
	32		
33	前期実技試験①		
34	医療面接、徒手検査法、血圧測定前期試験		
35	前期実技試験②		
36	刺鍼、施灸		

【分野】 専門分科 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	古屋 英治	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 医療面接（患者接遇などを含む）の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行うことで、円滑な医療面接が行えるよう学習をする。 臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患（肩こり、頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛）に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身につけている。 医療面接について理解し、適切に行えることを目的とする。 臨床でよく遭遇する肩こり・頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した常用穴を用いて適切に鍼灸施術を行えるようにする。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 血圧、脈拍を正しく測定し、記録することができる。 頸肩腕痛、腰下肢痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 頸肩腕痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 頸肩腕痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に頸肩腕痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、5.0mm 18号鍼および4.0mm 16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 腰下肢痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 腰下肢痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に腰下肢痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、5.0mm 18号鍼および4.0mm 16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 モデル患者の左右失眠穴に、2分間で半米粒大の透熱灸を左右交互に10壮以上施灸することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	授業中に学習した取穴や解剖学的部分などを復習しておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技 I 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1. 授業ガイダンス、POS、POMR、SOAPについて	POS、POMR、SOAP、診療録 医療面接法	講義 実技
	2	説明 2. 医療面接、診療録の記載など説明		
	3	2. 医療面接の演習	医療面接、診療録	実技
	4	模擬患者医療面接1		
	5	2. 医療面接の演習		
	6	模擬患者医療面接2		
	7	2. 医療面接の演習		
	8	模擬患者医療面接3		
	9	3. 腰下肢痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、	腰痛・腰下肢痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	10			
	11	3. 腰下肢痛② 医療面接、身体診察（徒手検査）常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	12			
	13	3. 腰下肢痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査）常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	14			
	15	3. 腰下肢痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	16			
	17	3. 腰下肢痛⑤	ロールプレイ形式	実技
	18	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う		
	19	4. 頸肩腕痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解	肩こり・頸肩腕痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	20			
	21	4. 頸肩腕痛② 医療面接、身体診察（徒手検査）の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	22			
	23	4. 頸肩腕痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査）の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	24			
	25	4. 頸肩腕痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	26			
	27	4. 頸肩腕痛⑤	ロールプレイ形式	実技
	28	ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う		
	29	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習①		実技
	30	徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		
	31	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習②		実技
	32	徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		
	33	前期実技試験①	医療面接・徒手検査法・血圧測定	実技
	34	医療面接、徒手検査法、血圧測定前期試験		
	35	前期実技試験②	施鍼・施灸	実技
	36	施鍼、施灸		

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	楽野木 笑巳果/古屋 英治	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	後期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患のうち、肩関節痛、膝関節痛に対して診察から施術までの一連の内容を学習する。 また、臨床実習前試験の為に授業として、これまで学んだ4疾患に対してロールプレイ実習を含めた臨床実践的な内容を行う。 東洋医学的な治療を行える能力を養うことも目的に、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習を行う。 治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。 臨床でよく遭遇する肩関節痛・膝関節痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴を用いて適切に鍼灸施術を行えるようになる。 また、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習することで感覚を養う。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 肩関節痛、膝関節痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 肩関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 肩関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に肩関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 膝関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 膝関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に膝関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 モデル患者の指定された部位（頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛に対する治療穴のうち1穴）を取穴し、2分間で半米粒大の八分灸を6壮以上施灸することができる。 東洋医学の診察（四診法）のうち、特に舌診、腹診、脈診の基本を理解し、概説することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学期末試験は、3年次に行う臨床実習Ⅲ・Ⅳの「臨床実習前試験」を兼ねるため、前期のはりきゅう臨床実技Ⅰの履修内容も含めた総合評価を実施する。
授業時間外必要な学修	授業中に学習した内容を復習しておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技Ⅱ 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

後期	1	2. 腰下肢痛・3. 頸肩腕痛の復習、確認		講義 実技
	2			
	3	5. 肩関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸		実技
	4			
	5	5. 肩関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	6			
	7	5. 肩関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	8			
	9	5. 肩関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		講義 実技
	10			
	11	6. 膝関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸	膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	12			
	13	6. 膝関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	14			
	15	6. 膝関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	16			
	17	6. 膝関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	18			
	19	5. 肩関節痛 6. 膝関節痛 ロールプレイ 医療面接・徒手検査法にて病態の推定まで	ロールプレイ形式	実技
	20			
	21	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習① 医療面接、徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		実技
	22			
	23	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習② 医療面接、徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		実技
	24			
	25	後期実技試験①（臨床実習前試験を兼ねる） 医療面接、身体診察、病態の推定	指示された課題【本専共通】 医療面接、身体診察、病態の推定	実技
	26			
	27	後期実技試験②（臨床実習前試験を兼ねる） 施鍼、施灸	指示された課題【本専共通】 施鍼、施灸	実技
	28			
	29	前期・後期全般の復習		実技
	30			
	31	7. 東洋医学的な鍼灸治療① 東洋医学的証立て a. 脈診、b. 要穴取穴（上肢・下肢）	脈診、腹診、舌診、脈・腹、舌の変化、上肢の要穴	実技
	32			
	33	7. 東洋医学的な鍼灸治療② 東洋医学的証立て a. 舌診・腹診、b. 要穴取穴（腹・背）	脈診、腹診、舌診、脈・腹、舌の変化、腹・背の要穴	実技
	34			
	35	7. 東洋医学的な鍼灸治療③ 東洋医学的証立て a. 四診合参、b. 東洋医学的臨床の実際	ロールプレイ形式	実技
	36			

【授業進度表】 はりきゅう臨床実技Ⅱ 2022年度 I部 鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	2. 腰下肢痛・3. 頸肩腕痛の復習、確認		
	2			
	3	5. 肩関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸		
	4			
	5	5. 肩関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
	6			
	7	5. 肩関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		

前期	8	至平八の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、入眠施灸練習	
	9	5. 肩関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）	
	10	基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	11	6. 膝関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖	
	12	など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸	
	13	6. 膝関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査）	
	14	基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
	15	6. 膝関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査）	
	16	基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	
17	6. 膝関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査）		
18	基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		
後期	19	5. 肩関節痛 6. 膝関節痛 ロールプレイ	
	20	医療面接・徒手検査法にて病態の推定まで	
	21	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習① 医療面接、徒手検査、取穴、刺	
	22	鍼、施灸	
	23	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習② 医療面接、徒手検査、取穴、刺	
	24	鍼、施灸	
	25	後期実技試験①（臨床実習前試験を兼ねる）	
	26	医療面接、身体診察、病態の推定	
	27	後期実技試験②（臨床実習前試験を兼ねる）	
	28	施鍼、施灸	
	29	前期・後期全般の復習	
	30		
	31	7. 東洋医学的な鍼灸治療①	
	32	東洋医学的証立て a. 脈診、b. 要穴取穴（上肢・下肢）	
33	7. 東洋医学的な鍼灸治療②		
34	東洋医学的証立て a. 舌診・腹診、b. 要穴取穴（腹・背）		
35	7. 東洋医学的な鍼灸治療③		
36	東洋医学的証立て a. 四診合参、b. 東洋医学的臨床の実際		

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	古屋 英治	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患のうち、肩関節痛、膝関節痛に対して診察から施術までの一連の内容を学習する。 また、臨床実習前試験の為に授業として、これまで学んだ4疾患に対してロールプレイ実習を含めた臨床実践的な内容を行う。 東洋医学的な治療を行える能力を養うことも目的に、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。 臨床でよく遭遇する肩関節痛・膝関節痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴を用いて適切に鍼灸施術を行えるようにする。 また、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習することで感覚を養う。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 肩関節痛、膝関節痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 肩関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 肩関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に肩関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 膝関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 膝関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に膝関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 モデル患者の指定された部位（頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛に対する治療穴のうち1穴）を取穴し、2分間で半米粒大の八分灸を6壮以上施灸することができる。 東洋医学の診察（四診法）のうち、特に舌診、腹診、脈診の基本を理解し、概説することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学期末試験は、3年次に行う臨床実習Ⅲ・Ⅳの「臨床実習前試験」を兼ねるため、前期のはりきゅう臨床実技Ⅰの履修内容も含めた総合評価を実施する。
授業時間外必要な学修	授業中に学習した内容を復習しておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技Ⅱ 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態		
後期	1	2. 腰下肢痛・3. 頸肩腕痛の復習、確認		講義 実技		
	2					
	3	5. 肩関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸		肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技	
	4					
	5	5. 肩関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技	
	6					
	7	5. 肩関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技	
	8					
	9	5. 肩関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	講義 実技	
	10					
	11	6. 膝関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸			実技	
	12					
	13	6. 膝関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習			膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	14					
	15	6. 膝関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習			膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	16					
	17	6. 膝関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習			膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	18					
	19	5. 肩関節痛 6. 膝関節痛 ロールプレイ 医療面接・徒手検査法にて病態の推定まで			ロールプレイ形式	実技
	20					
	21	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習① 医療面接、徒手検査、取穴、刺鍼、施灸				実技
	22					
	23	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習② 医療面接、徒手検査、取穴、刺鍼、施灸				実技
	24					
	25	後期実技試験①（臨床実習前試験を兼ねる） 医療面接、身体診察、病態の推定			指示された課題【本専共通】 医療面接、身体診察、病態の推定	実技
	26					
	27	後期実技試験②（臨床実習前試験を兼ねる） 施鍼、施灸			指示された課題【本専共通】 施鍼、施灸	実技
	28					
	29	前期・後期全般の復習				実技
	30					
	31	7. 東洋医学的な鍼灸治療① 東洋医学的証立て a. 脈診、b. 要穴取穴（上肢・下肢）			脈診、腹診、舌診、脈・腹、 舌の変化、上肢の要穴	実技
	32					
	33	7. 東洋医学的な鍼灸治療② 東洋医学的証立て a. 舌診・腹診、b. 要穴取穴（腹・背）			脈診、腹診、舌診、脈・腹、 舌の変化、腹・背の要穴	実技
	34					
	35	7. 東洋医学的な鍼灸治療③ 東洋医学的証立て a. 四診合参、b. 東洋医学的臨床の実際			ロールプレイ形式	実技
	36					

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<p>臨床実習Ⅱでは臨床実践を通して、あはき治療以外の施術所業務などを学習するとともに、診察技能の習得、レベルの向上を図ることを目的とする。前期は医療面接を後期には医療面接・身体診察内容から病態の推定・治療方針・選穴を考える。また、臨地実習にて、学外施術所における施術見学および業務体験を行う。また、医療施設、スポーツ、介護施設等の臨床現場を見学する事で、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会を与える。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 ・ 病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 ・ SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・ 学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>成績評価の基準と算定方法 (評価割合) 総合的に判断して60点以上 (100点満点中) を合格点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 2. 課題レポート (実習記録、デイリーノート、振り返りノートの評価) 3. 実習中の態度・取り組む姿勢など (実習指導者による評価)
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内：課題レポート (実習記録) による評価 ・ 学外：臨地見学実習レポート (デイリーノート、振り返りノート) 実習指導者による評価表 <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅱ 2022年度 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
----	----	------	-------------	------

1	業務基礎実習	施術所の業務について理解できる	講義 実習
2	施術所業務実習	・ 附属施術所での一般業務について円滑に行う事ができる	
3			
4	学外実習2 ガイダンス	学外実習について必要な事を理解する事ができる	実習
5	学外臨地実習2-1 治療院での業務実習	・ 時間に厳守で行動することができた ・ 臨床実習指導者と適切にコミュニケーションをはかり、指示通りに行動することができた ・ 一般のあはき治療院で一般業務について理解し行う事ができる	実習
6			
7			
8			
9			
10	学外臨地実習2-2 医療機関などでの見学実習	・ 医療機関などで、あはき師が行う業務内容を理解する事が出来る。 ・ 指導者の指示に従い、行動することができる	実習
11			
12			実習
13	学外臨地実習2-3 医療機関などでの見学実習		
14	臨床実習1-1：教員主導型での実践実習		実習
15			
16	臨床実習1-2：教員主導型での実践実習	・ 適切に医療面接を行う事ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる	実習
17			
18			
19	臨床実習1-3：教員主導型での実践実習		実習
20	臨床実習2-1：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う		実習
21			
22	臨床実習2-2：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う	・ 適切に医療面接を行う事ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる ・ 病態を推定し、治療方針を考えることができる	実習
23			
24			
25	臨床実習2-3：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う		実習
26	臨床実習2-4：医療面接、身体診察、病態把握、治療方針の決定を主に行う、学生主体型実習		実習
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			

【分野】 専門分野

【科目】 研究基礎

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	藤田洋輔	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	あはき師としてEBMに基づく臨床を行うために、また、チーム医療の一翼を担うことが出来るようになるために、グループワークによるあはき研究を通じて、医療人としてのリテラシーと論理的思考 (logical thinking) や批判的思考 (critical thinking) について学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	研究の意義と研究の基礎知識を学ぶために、研究の基礎知識、文献検索方法、データ分析などについて学び、全体を通して実際に研究を行ない発表する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の意義・目的、研究方法、研究の一連のプロセスについて理解することができる。 ・鍼灸に関する先行研究について、検索方法 (和文・英文) を学び、検索力を身につけることができる。 ・鍼灸に関する研究の概要を知り、研究過程の知識を習得することができる。 ・研究の基礎を学ぶ中で、論理的、批判的な思考を身につけることができる。

【担当教員から】

教科書	配布資料等
参考書	臨床研究の道標 (iHope)、リサーチ・クエスチョンの作り方 (iHope)、EBMの工具箱第2版 (中山書店)、アカデミック・スキルズ第3版 (慶應義塾大学出版会) 等
成績評価基準	評価の観点とは 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、 学期末に行うレポートおよびプレゼンテーションで評価する。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	授業はグループ単位で進行するグループワーク (GW) 形式やグループで共有しつつ行う演習で行う。

【授業計画】 研究基礎 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	研究と臨床の繋がりを学ぶ	研究が果たす役割、研究の考え方	講義

1期	2	疑問を構造化してみよう (PICOって?)	あはき医療や臨床における疑問	演習・GW	
	3	研究論文を検索してみよう	研究論文を検索する、 複数の研究論文	演習・GW	
	4	研究テーマをしぼってみよう①	疑問や先行研究、研究テーマ、 グループで意見交換	演習・GW	
	5	研究テーマをしぼってみよう②		演習・GW	
	6	統計の基礎を知ろう①	統計の基礎	演習・GW	
	7	統計の基礎を知ろう②、医療統計を使ってみよう	統計の基礎、 モデルデータの統計処理	演習・GW	
	8	研究デザイン、研究計画を考えてみよう	研究の型、 グループで研究計画を立案	演習・GW	
	9	研究デザイン、研究計画を書いてみよう	研究計画を立案、 構造化した研究計画	演習・GW	
	10	プレゼンテーションしてみよう-1	グループごとにプレゼンテーション (スライドによる発表)	演習・GW	
	11	プレゼンテーションしてみよう-2		演習・GW	
		12	ディスカッションと振り返り	グループ間の討議、 振り返り、“気づき”	演習・GW
	2期				
3期					

【授業進度表】研究基礎 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
----	----	------	-------	------

1期	1	研究と臨床の繋がりを学ぶ		
	2	疑問を構造化してみよう（PICOって？）		
	3	研究論文を検索してみよう		
	4	研究テーマをしぼってみよう①		
	5	研究テーマをしぼってみよう②		
	6	統計の基礎を知ろう①		
	7	統計の基礎を知ろう②、医療統計を使ってみよう		
	8	研究デザイン、研究計画を考えてみよう		
	9	研究デザイン、研究計画を書いてみよう		
	10	プレゼンテーションしてみよう-1		
	11	プレゼンテーションしてみよう-2		
	12	ディスカッションと振り返り		
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野

【科目】 災害と鍼灸・開業支援

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	藤田洋輔、他	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高校および大学卒業者は学生時代での様々な経験（部活動、アルバイト、ボランティア活動など）を通じた経験、社会人経験者は社会人経験も踏まえ、キャリアシート等を用いて自己理解を図り、現時点における将来像を考える。 ・あはき師の将来展望について、多様な職域（療養費含）を解説する。 ・開業希望者、就職希望者に関わらず、施術所経営の上で知るべき知見を解説する。 ・災害の実際と災害時におけるあはき師の役割について解説する。 ・災害時および平時の医療者教育として救急救命演習を行い、一般市民による心肺蘇生法（BLS）および除細動（PAD）を学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の経験について振り返り（人生の棚卸し）、自己理解を行うことができる。 ・多様なあはき師の職域（療養費含む）を理解する。 ・他職種連携の上で医療者、あはき師としての災害ボランティア活動内容を理解する。 ・BLSおよびPADを学び、救急救命処置が出来るようになる。 ・自己理解および多様なあはきの職域を知り、現時点での将来像を未来履歴書として具体化できる。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアシートを作成し、自己理解に繋げる。 ・多様な鍼灸師の職域を知り、自身の将来展望を図ることができる。 ・施術所における経理経営などの運営、開業に必要な知識の理解ができる。 ・はり、きゅうの施術における療養費（保険）制度の概要と、その運用について理解し概説できる。 ・一般市民による心肺蘇生法（Basic Life Support）およびPublic Access Defibrillationの概要を理解し、実践することができる。 ・災害医療現場における鍼灸師の活動内容を理解し、概説できる。 ・自己将来像についてディスカッションを行い、自身の視野を広げる事ができる。

【担当教員から】

教科書	なし
参考書	はじめての鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル（医道の日本社） 多職種連携で支える災害医療（医学書院）
成績評価基準	評価の観点とは 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、 提出レポートにて評価し、平常点（態度、積極的な参加状況等）も加味する。
成績評価方法	学業成績の評価は、レポートの評価および履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	【講義1】 ガイダンスおよびキャリアシートの作成とキャリアの理解	キャリアシート、自己理解	講義
	14	【講義2】 施術所における鍼灸臨床①	多様な鍼灸師の職域 自身の将来展望	講義
	15	【講義3】 施術所における鍼灸臨床②		講義
	16	【講義4】 施術所における鍼灸臨床③		講義
	17	【講義5】 施術所における鍼灸臨床④		講義
	18	【講義6】 施術所運営および開業の理解①	施術所における経理経営などの運営	講義
	19	【講義7】 施術所運営および開業の理解②		講義
	20	【講義8】 保険（療養費）制度の理解	はり、きゅうの施術における療養費（保険）制度	講義
	21	【演習1】 普通救命講習（予定）	一般市民による心肺蘇生法（Basic Life Support）およびPublic Access Defibrillationの概要	演習
	22	【演習1】 普通救命講習（予定）		
	23	【講義9】 災害医療と鍼灸師の活動の理解	災害医療現場における鍼灸師の活動内容	講義
	24	【講義10】 ガイダンスおよびキャリアシートの作成とキャリアの理解	キャリアシート、自己理解	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 災害と鍼灸・開業支援 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			

1期	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	2期	13	【講義1】 ガイダンスおよびキャリアシートの作成とキャリアの理解
14		【講義2】 施術所における鍼灸臨床①	
15		【講義3】 施術所における鍼灸臨床②	
16		【講義4】 施術所における鍼灸臨床③	
17		【講義5】 施術所における鍼灸臨床④	
18		【講義6】 施術所運営および開業の理解①	
19		【講義7】 施術所運営および開業の理解②	
20		【講義8】 保険（療養費）制度の理解	
21		【演習1】 普通救命講習（予定）	
22		【演習1】 普通救命講習（予定）	
23		【講義9】 災害医療と鍼灸師の活動の理解	
24		【講義10】 ガイダンスおよびキャリアシートの作成とキャリアの理解	
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		